



校長 佐々木 希久子

2学期もよろしくお願い申し上げます

長かった夏休みも終わりました。今年は9月1日が日曜日だったため、巷では、「8月32日」という人もいたようですが、9月2日には生徒の皆さんが元気な姿で学校に戻ってまいりました。遅刻しないように送り出してくださった保護者、ご家族の皆様、ありがとうございました。

また、夏休み中は、各地域でお祭りなどを開催してくださり、大勢の港南中生がお世話になりました。地域の皆様、ありがとうございました。

2学期は1年間の中で最も長い学期です。学習も進むし、学校行事もあります。既に音楽の授業では合唱コンクールに向けた練習が始まっています。他にも区連合体育大会や特別支援学級合同運動会、区総合防災訓練、定期考査、職場体験、音楽鑑賞教室や音楽交歓会など。そして、学芸発表会。「行事に燃える!」という港南中の伝統を今年度も引き継いでほしいです。

生徒会本部役員の改選もあります。2学期は、学校の柱が3年生から2年生にバトンタッチされる大切な学期です。現3年生のスローガンは「Colorful」です。次の2年生の人たちはどのような考えでどのようなスローガンを創るのでしょうか。今からとても楽しみです。



公正・公平について

学校では日常生活や道徳科の授業等で集団や社会とのかかわりに関することを学んでいきます。

わたしたちは人間である以上、ものごとや他者に対して「好き」「嫌い」があります。これは、自ずと生まれ出る感情であるため、人間は、これをなくすことはできません。しかしながら、人として成長していく過程では、「好き」「嫌い」の感情にとらわれない・振り回されないようにすることがとても大切です。

誰でも、「好きなこと」と「嫌いなこと」があります。これは多くの場合、「やりたいこと」と「やりたくないこと」に直結します。保育園・幼稚園から小学校、中学校と過ごしてきている生徒の皆さんには直ぐ思いつくことだと思いますが、わたしたちの生活においては「やりたくないこと」をやらないままというわけにはいきません。人には必ず、好むと好まざるとにかかわらず、やらなければならないことが存在します。そのやらなければならないことをしっかりとやっているからこそ、皆さんは成長して、中学生として生活できていくのです。

では、対人間で考えてみましょう。

上で触れたように他者に対しても「好き」「嫌い」はあります。これはなくすことはできません。でも、とらわれない・振り回されないようにすることはできます。例えば、席替えをして、嫌いな人と同じ班になったとしたらどうしますか。よくあることだと思いますが、班活動は学校生活の基本です。給食当番や清掃、話し合い活動など、多くの活動は班単位で行います。そのときに、好きな△△さんとばかり組んだり、時には班活動中に班を越えておしゃべりしたりするかと思えば、その一方で、嫌いな〇〇さんとは話もしないし、協力もしないという姿勢・態度でよいのでしょうか。もちろん、「No」です。理屈は誰もが分かることです。理屈で分かっていることを実行に移すことは難しいことです。だからこそ、それが成長につながるのです。

自分の「好き」「嫌い」で他者への接し方を変えるのは集団生活にあってはふさわしくない行動です。理想の姿は、自分と同じように他者も尊重し、誰に対しても分け隔てなく公平に接し続けることができる人です。好きな人にも嫌いな人にもどちらでもない人にも、集団で生活する際は、分け隔てなく接する、誰とでも笑顔で話せる、誰でもあってもその人が困っていたら助ける、そんな人になってください。

